

研究・調査報告書

報告書番号	担当
533	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Physiological study of prevention of hangovers by persimmon 柿による悪酔い防止の生理学的研究	
執筆者	
前田正信、向阪彰、和気秀文、岸岡史郎、岩橋秀夫、池田裕明、竹下達也、宮下和久、有田幹雄、富田耕太郎	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
自律神経 Vol.47 No.1 Page.32-38 (2010.02.15)	
キーワード	
柿、酒、アルコール、悪酔い	
要 旨	
<p>柿には悪酔い防止効果があるとされている。柿のアルコール醗酵への効果については、ウサギを用いた実験で柿の実の果実汁投与により、血中アセトアルデヒド濃度が低くなると報告されている。マウスを用いた実験でも、柿の実の果実汁投与により、同様に血中アセトアルデヒド濃度が低くなると報告されている。しかしながら、ヒトを用いて生理学的な指標から効果を調べた報告はないため、本研究で柿を摂取した時としない時の飲酒前後で循環機能(血圧、心拍数等)、呼吸機能、神経学的検査(ふらつき度の測定等)、エタノールとアセトアルデヒドの測定を行って影響を調査した。その結果、呼気中アルコール濃度は飲酒の1時間後、柿を摂取した方(0.44±0.02 mg/l, mean±SE)がコントロール(0.52±0.02 mg/l)に比べて有意に低かった($p<0.01$, n=7)。拡張期血圧は柿を摂取した方がコントロールに比べ、飲酒した直後(82±6, vs. 74±6 mmHg, $p<0.01$, n=7)、飲酒1時間後(74±5, vs. 67±5 mmHg, $p<0.01$, n=7)で有意に高かった。これは飲酒後急性期に血圧は低下するが、柿を摂取することにより血圧低下が生じにくく、飲酒前の値に近いことを意味している。呼吸数、片足立ちの検査では、柿を摂取により正常値に近くなったが、有意差までには至らなかった。記銘力の検査では柿摂取とコントロールで変化はなかった。血中アセトアルデヒド濃度は柿摂取により低下するグループ、上昇するグループ、変化のないグループに分かれ、全体では有意差が生じなかった。飲酒前に柿を摂取することで悪酔い防止の効果があることが推測される。</p>	